

HIKVISION



ネットワークスピードドーム クイックスタートガイド

UD.6L0201B2042A01

Made in China

www.hikvision.com

クイックスタートガイド

COPYRIGHT ©2015 Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd.

無断複写転載等を禁ず。

文章、画像、図表を含むすべての情報は、Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. またはその子会社（以下、「Hikvision」とする）の所有するものとします。本ユーザ マニュアル（以下、「本マニュアル」とする）は、Hikvision の事前の書面による許可なく、部分的または全体的にかかわらず再生産、変更、翻訳または配布できないものとします。特に規定されていない限り、Hikvision は明示的にせよ黙示的にせよ本マニュアルに関して一切の補償、保証または表明を行わないものとします。

本マニュアルについて

このマニュアルは 5 インチ、6.5 インチ、7 インチ IR および 8 インチ IR ネットワークスピードドームに対応しています。

本マニュアルには製品の使用および管理についての指示が含まれています。ここに記載されている写真、表、画像およびその他すべての情報は説明だけを目的としています。本マニュアルに含まれる情報は、ファームウェア更新やその他の理由で通知なく変更されるものとします。当社ウェブサイトでも最新版を参照してください (<http://overseas.hikvision.com/en/>)。

専門の技術者の指導の下で本ユーザ マニュアルをご利用ください。

商標に関する確認

HIKVISION およびその他 Hikvision の商標およびロゴは、国や地域に関係なく Hikvision の所有物です。以下に示されたその他の商標およびロゴは、各権利保有者の所有物です。

法的免責事項

適用法により許容される範囲内で、記載の製品とそのハードウェア、ソフトウェアおよびファームウェアは、あらゆる誤謬やエラーを含め、そのままの形で提供されるものとし、HIKVISION では明示黙示を問わず一切の保証 (商品性、十分な品質、特定の目的の適合性および第三者の権利非侵害を含むがそれだけに限定されない) を行いません。HIKVISION およびその取締役、役員、従業員または代理人は、本製品の利用に関連する事業利益の損失や事業妨害、データや文書の損失に関する損害を含む特別、必然、偶発または間接的な損害に対して、たとえ HIKVISION がそれらについて通知を受けていたとしても、一切の責任を負いません。

ネットワークスピードドーム・クイックスタートガイド

インターネットアクセスを伴う製品に関して、当該製品の一切の使用はお客様自身の責任によるものとします。HIKVISION は、異常操作、プライバシー漏えいまたはサイバー攻撃、ハッキング、ウィルス検査やその他のセキュリティリスクから生じるその他の損害に対して一切の責任を負わないものとします。ただし、必要に応じて HIKVISION は適宜技術サポートを提供します。

監視に関する法律は裁判管轄地域によって異なります。本製品のご使用前に、使用地の裁判管轄地域におけるすべての関連法を確認して、必ず適用法に準拠するように利用してください。本製品が不正な目的で使用された場合に、HIKVISION は責任を負わないものとします。

本マニュアルと適用法における矛盾がある場合については、後者が優先されます。

規制情報

FCC 情報

FCC 準拠: 本装置は連邦通信委員会規則第 15 条の基準に基づくクラス a デジタル機器です。これらの制限は、商業環境で装置を運用する際に、有害な干渉に対して妥当な保護を提供するように設計されています。この装置は電波を発生または使用し、無線周波数エネルギーを放射する可能性があり、取扱説明書にしたがって設置および使用しなかった場合、無線通信に有害な干渉を引き起こすことがあります。住宅地域でこの装置を運用する場合、有害な干渉を引き起こす可能性があり、その場合はユーザ側の負担で干渉に対処する必要があります。

FCC 条件

このデバイスは、FCC ルール Part 15 に準拠しています。運用は以下の 2 つの条件にしたがうものとします:

1. このデバイスが有害な干渉を引き起こす可能性がない。
2. この機器は、想定外の動作を引き起こす可能性のあるものも含め、あらゆる干渉を受け入れなければならない。

EU 適合宣言



本製品および -該当する場合- 付属品は、“CE” のマークが付いており、EMC 指令 2004/108/EC、RoHS 指令 2011/65/EU の下に記載されている該当欧州統一規格に準拠しています。



2012/19/EU (WEEE 指令): この記号が付いている製品は、欧州連合 (EU) の地方自治体の未分別廃棄物として処分できません。適切にリサイクルするために、本製品は同等の新しい装置を購入する際に、お近くの販売業者に返却いただくか、指定された収集場所で処分してください。詳細については次の URL を参照してください:www.recyclethis.info.



2006/66/EC (バッテリー指令): 本製品には、欧州連合 (EU) の地方自治体の未分別廃棄物として処分できないバッテリーが含まれています。特殊バッテリー情報に関する製品資料をご覧ください。バッテリーにはこの記号が付いており、カドミウム (Cd)、鉛 (Pb)、水銀 (Hg) を示す文字も記載されています。適切にリサイクルするために、販売業者か、指定された収集場所にご返却ください。詳細については次の URL を参照してください:www.recyclethis.info.

カナダ産業省 ICES-003 準拠

本装置は CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A) 基準要件を満たしています。



安全上の指示

これらの指示は、ユーザが製品を正しく使用し、危険や財産損失を回避できるように保証することを目的としています。

注意事項は**警告**と**注意**に分かれています：

警告：これらの警告を無視した場合、深刻な負傷または死亡の危険性があります。

注意：これらの注意を無視した場合、負傷または装置の損傷の危険性があります。

	
<p>警告 重傷や死亡を防ぐために、これらの安全対策にしたがってください。</p>	<p>注意 ケガや物損の可能性を抑えるために、これらの注意にしたがってください。</p>



警告

- 電気的な操作はすべてお住いの地域の電気保安規制、防火規制、その他の関連規制に厳格にしたがう必要があります。
- 電源アダプターは一般の企業が提供しているものを利用してください。消費電力は必要値を下回ってはいけません。
- 1 つの電源アダプターに複数のデバイスを接続しないでください。過負荷によりオーバーヒートあるいは火災の危険があります。
- スピードドームを接続、設置または除去する前に、電源が切断されていることを確認してください。
- 製品が壁または天井に設置される場合、デバイスをしっかりと固定する必要があります。
- デバイスから煙や異臭、騒音が発生した場合、すぐに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターにご連絡ください。
- 製品が正しく動作しない場合、販売店または最寄りのサービスセンターに連絡してください。スピードドームをご自身で分解することは絶対におやめください。(承認されていない修理や保守行為による問題については我々はいかなる責任も負いません。)
- 6 メートル以内の距離でレーザー光を直接見ないようにしてください。レーザーは人体に危険です。



注意：

- ドームを落下させたり、物理的衝撃を与えないでください。強度の電磁放射にさらさないようにしてください。装置を振動面や衝撃が加わりやすい場所に設置することは避けてください(無視すると装置が損傷することがあります)。

ネットワークスピードドーム・クイックスタートガイド

- スピードドームを高温(詳細な動作温度についてはデバイスの仕様を参照してください)の場所、低温の場所、ほこりの多い場所あるいは湿度の高い場所に設置しないでください。強度の電磁放射にさらさないようにしてください。
- 屋内用のドームカバーは雨や湿気にさらさないようにしてください。
- 装置を直射日光にさらしたり、換気の悪い場所、ヒーターやラジエーターなどの熱源にさらすことは禁止されています(無視すると火災の危険があります)。
- スピードドームを太陽や極端に明るい場所に向けないでください。焦点ボケや不鮮明化が起こる可能性があります(動作不良ではありません)、またセンサーの寿命に影響する可能性があります。
- ドームカバーを開けるときは同梱の手袋を利用して、ドームカバーに直接触れることは避けてください。指の汗は酸性で、ドームカバーの表面のコーティングが侵食される可能性があります。
- ドームカバーの内側と外側の表面には柔らかく乾いた布を用いてください。アルカリ洗剤は使わないでください。
- 将来利用できるように梱包材は開梱後も保存しておいてください。何か障害があった場合、スピードドームを工場に返送する際には元々の梱包材を使う必要があります。元々の梱包材以外を使った場合、スピードドームが損傷し、追加費用が発生する可能性があります。
- バッテリーの不適切な使用や交換を行うと、爆発の危険性があります。同一または同等のタイプのもので交換してください。バッテリーのメーカーによって提供された指示にしたがって、使用済みバッテリーを処分してください。

目次

1 概要	1
1.1 タイプ I スピードドームの概要.....	1
1.2 タイプ II スピードドームの概要.....	2
1.3 タイプ III スピードドームの概要.....	3
1.4 タイプ IV スピードドームの概要.....	4
2 設置	5
2.1 ウォールマウント.....	5
2.1.1 タイプ I スピードドーム.....	6
2.1.2 タイプ II スピードドーム.....	10
2.1.3 タイプ III スピードドーム.....	14
2.1.4 タイプ IV スピードドーム.....	17
2.2 天井埋め込みマウント.....	21
2.3 天井マウント.....	23
2.3.1 天井埋め込み取付金具の取り外し.....	23
2.3.2 天井マウント適用時の配線.....	24
2.3.3 マウント.....	25
3 LAN 経由でのドームの設定	27
3.1 配線.....	27
3.2 スピードドームのアクティベート.....	27
3.2.1 Web ブラウザ経由のアクティベーション.....	28
3.2.2 SADP ソフトウェア経由のアクティベーション.....	28
3.3 IP アドレスの変更.....	30
4 Web ブラウザ経由のアクセス	31

1 概要

ケーブルを接続する前に電源を切っておいてください。

それぞれのスピードドームモデルは大きく分けて 4 種類に分類できます。詳細については以下の内容を参照してください。

ケーブルは色分けによって区別できるようになっています。ケーブルに付けられたラベルは識別用です。

タイプ I は 5 インチスピードドームを指します。

タイプ II は 6.5 インチスピードドームを指します。

タイプ III は 7 インチ IR スピードドームおよび 7 インチレーザースピードドームを指します。

タイプ IV は 8 インチ IR スピードドームおよび 8 インチレーザースピードドームを指します。

下図は参考用のものであり、実際の製品を基準として確認してください。

1.1 タイプ I スピードドームの概要

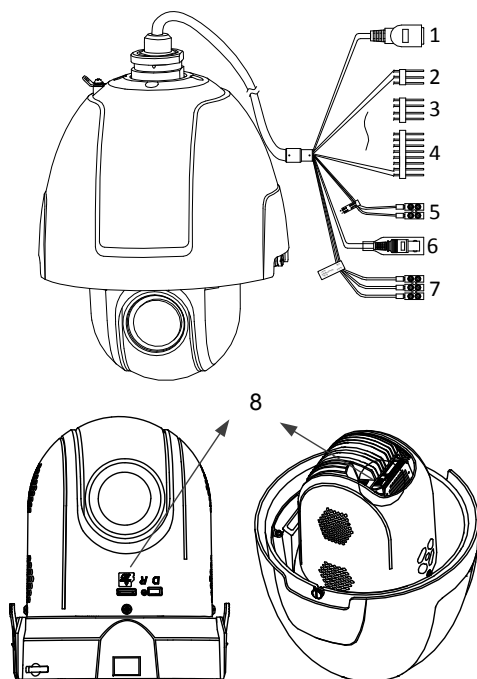


図 1-1 タイプ I スピードドームのケーブルインターフェイス

表 1-1 ケーブルインターフェイスの説明

番号	説明
1	ネットワークケーブル
2	音声ケーブル
3	アラーム出カケーブル
4	アラーム入カケーブル
5	RS-485 ケーブル
6	ビデオケーブル
7	電源ケーブル
8	microSD カードスロット

1.2 タイプ II スピードドームの概要



6.5 インチスピードドームは 2 種類の構造が提供されています。SD カードスロットの位置については、実際の製品を参照してください。

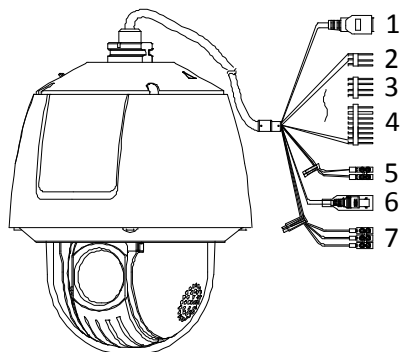


図 1-2 タイプ II スピードドームのケーブルインターフェイス

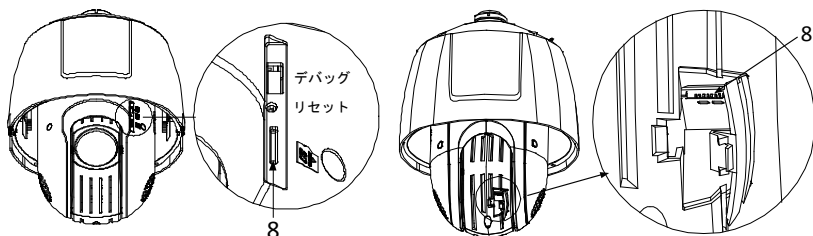


図 1-3 タイプ II スピードドームの SD カードスロット

表 1-2 ケーブルインターフェイスの説明

番号	説明
1	ネットワークケーブル
2	音声ケーブル
3	アラーム出力
4	アラーム入力
5	RS-485
6	ビデオケーブル
7	電源ケーブル
8	SD カードスロット

1.3 タイプ III スピードドームの概要

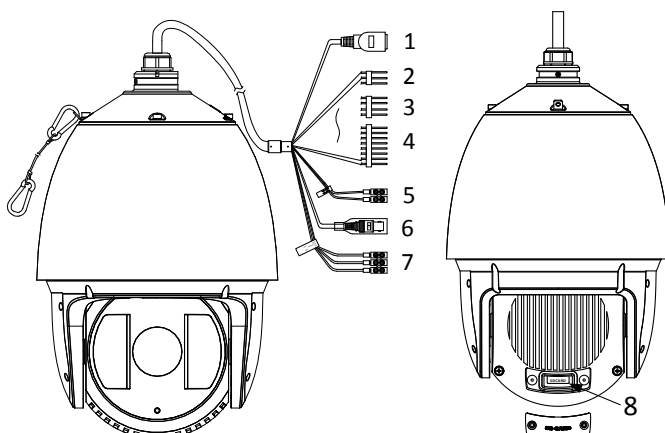


図 1-4 タイプ III スピードドームのケーブルインターフェイス

表 1-3 ケーブルインターフェイスの説明

番号	説明
1	ネットワークケーブル
2	音声ケーブル
3	アラーム出力
4	アラーム入力
5	RS-485

番号	説明
6	ビデオケーブル
7	電源ケーブル
8	SD カードスロット

1.4 タイプ IV スピードドームの概要

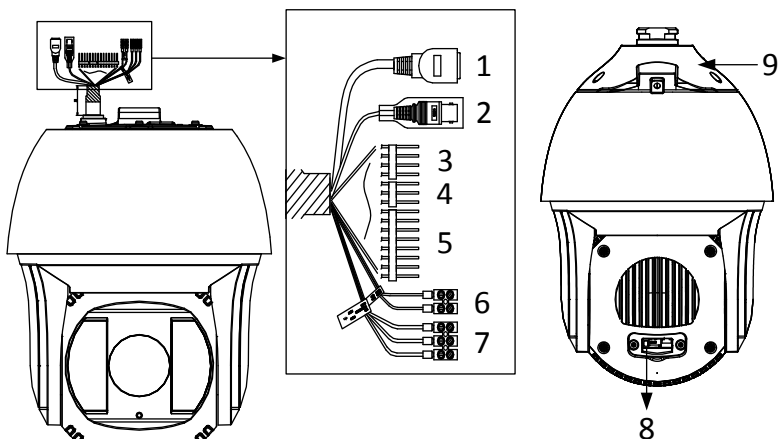


図 1-5 タイプ IV スピードドームのケーブルインターフェイス

表 1-4 ケーブルインターフェイスの説明

番号	説明
1	ネットワークケーブル
2	ビデオケーブル
3	アラーム出力
4	音声ケーブル
5	アラーム入力
6	RS-485
7	電源ケーブル
8	SD カードスロット
9	ヘッドカバー

2 設置

始める前に:

- パッケージの中の機器の状態に問題がなく、すべての組立部品が含まれていることを確認してください。
- 標準の電源は 12 V DC、または 24 V AC です、供給電源がスピードドームと一致していることを確認してください。
- 設置作業中はすべての関連装置の電源がオフになっていることを確認します。
- 設置環境に関連する製品の仕様をチェックしてください。
- 壁面が、スピードドームと取付金具の重量の 4 倍の重量に耐えられる十分な強度を持っていることを確認してください。

IR(赤外線)をサポートするスピードドームでは、赤外線の反射を防止するために、次の注意事項に注意を払う必要があります:

- ドーム カバーに付着したほこりや油は赤外線の反射を引き起こします。ドーム カバーのフィルムは、設置が完了するまではがさないでください。ドームカバーにほこりや油が付着した場合、柔らかく清潔な布とイソプロピル アルコールでドーム カバーを清掃してください。
- レンズのすぐそばに反射面がないことを確認してください。スピードドームからの赤外線光が反射してレンズに差し込むことがあります。



図 2-1 に示すように、スピードドームに防水ケーブルを接続して引きずらないでください。防水性能が劣化します。

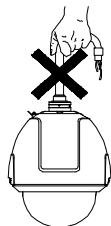


図 2-1 ケーブルを引きずらないでください

2.1 ウォールマウント

始める前に:

ケーブルを接続する前にスピードドームの電源を切っておいてください。

注記

- セメント壁の場合は、拡張ネジを使用して取付金具を固定する必要があります。壁面の拡張パイプのマウント穴の位置は取付金具のマウント穴の位置と合わせる必要があります。
- 木の壁の場合は、セルフタッピングネジを使用して取付金具を固定する必要があります。
- 壁面が、ドームと取付金具の重量の 8 倍の重量に耐えられる十分な強度を持っていることを確認してください。
- 図 2-7 の取付金具はスピードドームシリーズに推奨されているものです。他の取付金具を使う場合はペンダントアダプターが必要です。ペンダントアダプターの寸法は $G1\frac{1}{2}$ です。

2.1.1 タイプ I スピードドーム

注記

以下の取り付け手順ではロングアーム型取付金具を例に取ります。

方法:

1. スピードドームの両側の 2 つのロックネジをゆるめます。図 2-2 に示すように下部ドームを後部ボックスから取り外します。
2. 保護材を取り外します。
分離型 5 インチスピードドームの場合: 図 2-3 に示すようにカメラモジュールを後部ボックスから取り外します。
統合型 5 インチスピードドームの場合: 保護フォーム、ステッカーおよびレンズカバーをドームドライブから取り外します。図 2-4 に示すとおりです。

注記

ロックネジをドームから取り外さないでください。

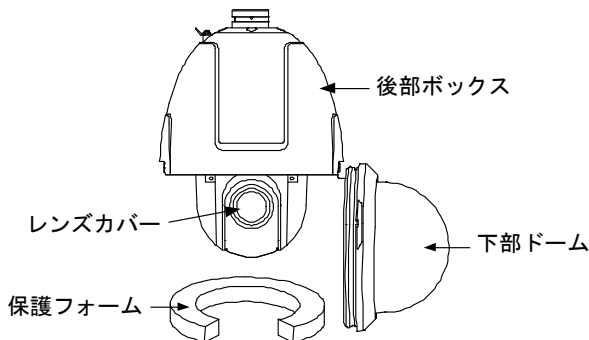


図 2-2 下部ドームの取り外し

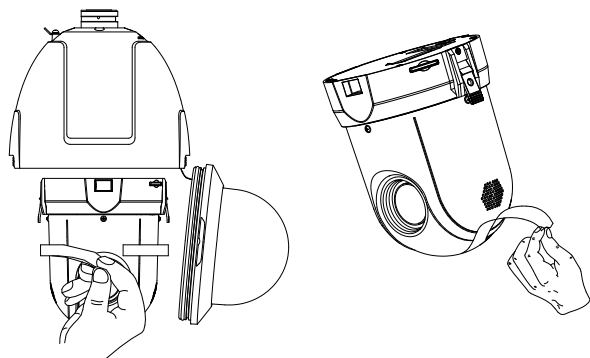


図 2-3 分離型 5 インチスピードドームからのステッカーの取り外し

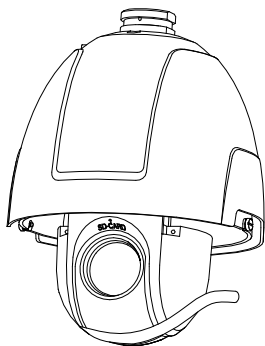


図 2-4 統合型 5 インチスピードドームからのステッカーの取り外し

- スピードドームが PoE (パワーオーバーイーサネット) 機能をサポートしている場合、ドームカメラの PoE+ と Hi-PoE 機能を切り替えることができます。スピードドームが電源ケーブルしかサポートしていない場合、この手順はスキップできます。

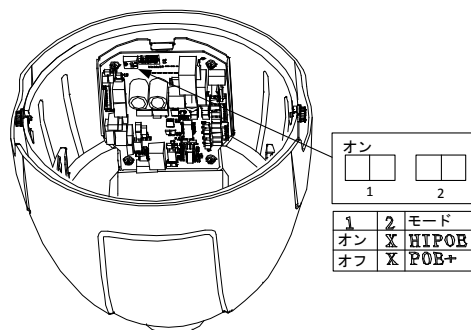


図 2-5 PoE+ および Hi-PoE 切り替え



Hi-PoE を選択した場合、Hi-PoE アダプターを接続する必要があります。

Hi-PoE 経由の電源供給がサポートされています。Hi-PoE モジュールの接続は以下に示すとおりです。

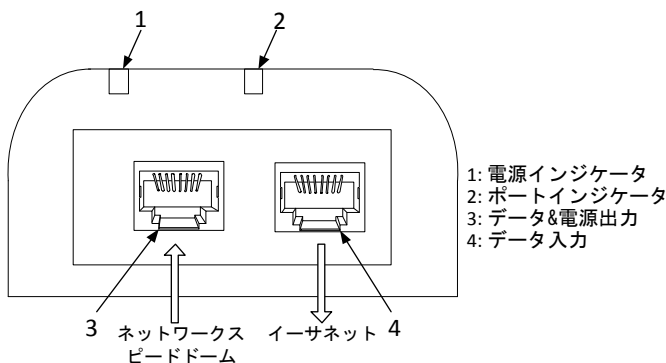


図 2-6 Hi-PoE 接続

Hi-PoE の接続

方法:

- 1). Hi-PoE モジュールをデータ入力インターフェイス経由でネットワークケーブルでインターネットに接続します。
- 2). Hi-PoE モジュールをデータ&電源出力インターフェイス経由でネットワークケーブルでスピードドームに接続します。
- 3). Hi-PoE モジュールの電源をオンにします。



注記 Hi-PoE モジュールへの電源の供給は電源供給パラメータにしたがってください。

4. 下部ドームの切れ込みを後部ボックスのロックネジに合わせ、下部ドームを再度取り付けます。ロックネジを締めます。
5. 取付金具の穴に合わせ、ドリルで壁面に 4 つのネジ穴を開けます。M8 拡張ネジを取り付け穴に差し込みます。
6. ガasketを取り付け、続いて 4 つのネジ穴を壁に開けた拡張ネジに合わせてながら取付金具を取り付けます。
7. 取付金具を 4 つの六角ナットとワッシャーで固定します。

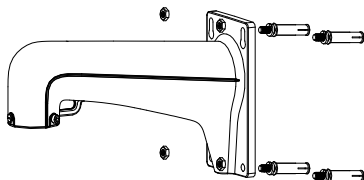


図 2-7 取付金具の固定

8. スピードドームを取付金具に設置します。
 - 1). 図 2-8 に示すように安全ロープをスピードドームから取付金具のフックに掛けます。
 - 2). スピードドームのケーブルを取付金具を通して配線します。
 - 3). 対応するケーブルを接続します。

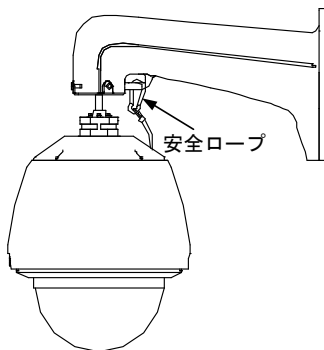


図 2-8 安全ロープの取り付け

- 4). 取付金具の 2 本のロックネジをゆるめます。

- 5). スピードドームを取付金具に設置します。スピードドームを時計回りに回し、きつく固定します。
- 6). ロックネジを六角レンチで固定します。

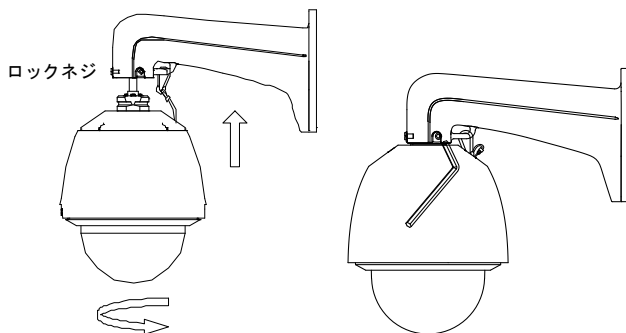


図 2-9 ドームのマウント



- 図 2-7 の取付金具はスピードドームシリーズに推奨されているものです。他の取付金具を使う場合はペンダントアダプターが必要です。図 2-10 を参照してください。
- ペンダントアダプターの寸法は $G1\frac{1}{2}$ です。

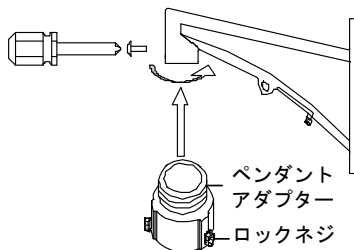


図 2-10 ペンダントアダプター

2.1.2 タイプ II スピードドーム



以下の取り付け手順ではロングアーム型取付金具を例に取ります。

方法:

1. スピードドームのフランジにある 4 本のロックネジをゆるめます。図 2-11 を参照してください。

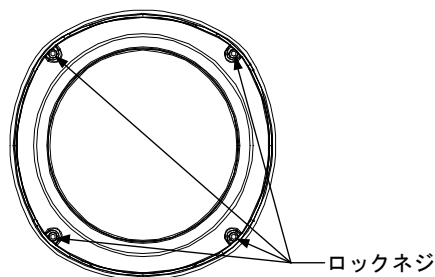


図 2-11 ロックネジをゆるめる



ロックネジをドームから取り外さないでください。

2. 下部ドームを後部ボックスから取り外し、保護フォーム、ステッカーおよびレンズカバーをドームドライブから取り外します。

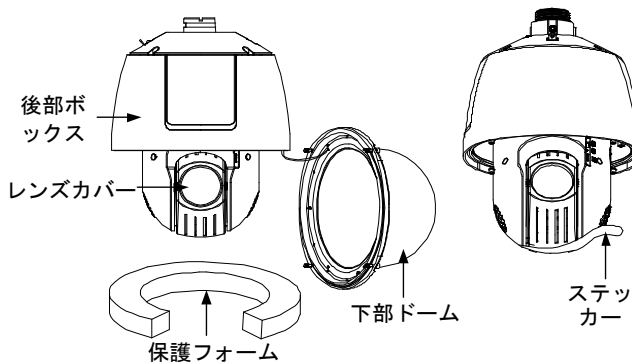
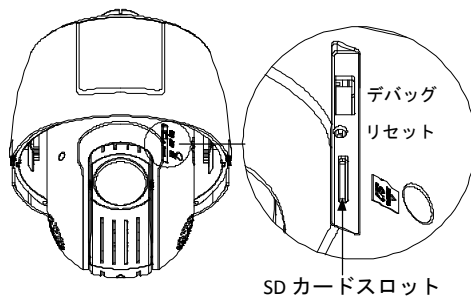


図 2-12 保護材の取り外し

3. microSD カードをスピードドームに挿入します。



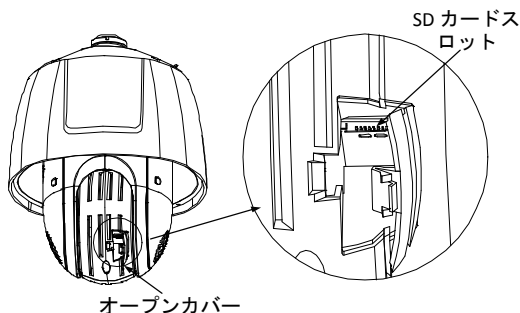


図 2-13 SD カードの挿入

4. 下部ドームの切れ込みを後部ボックスのロックネジに合わせ、下部ドームを再度取り付けます。ロックネジを締めます。
5. 2.1.1 節の手順 5-7 を参照し、取付金具を設置します。
6. スピードドームを取付金具に設置します。
 - 1). スピードドームの後部ボックスから取付金具に安全ロープを掛けます。ケーブルを取付金具を通して配線します。
 - 2). 対応するケーブルを接続します。

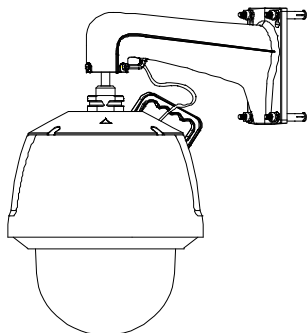


図 2-14 安全ロープの取り付け

- 3). 取付金具の 2 本のロックネジをゆるめます。
- 4). スピードドームを取付金具に設置します。スピードドームを時計回りに回し、きつく固定します。
- 5). ロックネジを六角レンチで固定します。

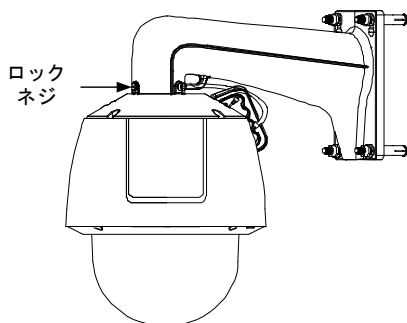


図 2-15 ドームのマウント



- 図 2-7 の取付金具はスピードドームシリーズに推奨されているものです。他の取付金具を使う場合はペンダントアダプターが必要です。
- ペンダントアダプターの寸法は $G1\frac{1}{2}$ です。

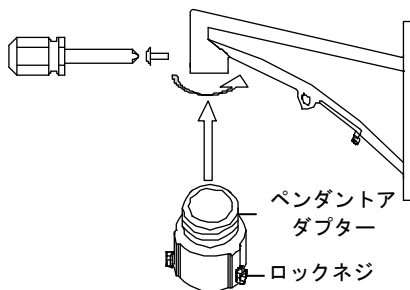


図 2-16 ペンダントアダプター

2.1.3 タイプ III スピードドーム

方法:

1. 図 2-17 に示すとおり、保護ステッカーを取り外します。

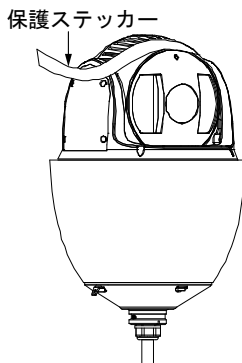


図 2-17 保護ステッカーの取り外し

2. 図 2-18 のとおり、スピードドームの背面のカバーを取り外します。SD カードを SD カードスロットに挿入し、カバーを取り付け直します。

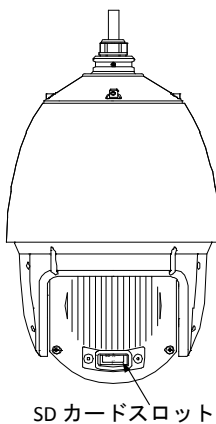


図 2-18 SD カードスロット

3. 2.1.1 節の手順 5-7 を参照し、取付金具を設置します。
4. 安全ロープの両端をスピードドームの後部ボックスと取付金具にそれぞれ掛けます。以下に示すように、ケーブルを取付金具を通して配線します。

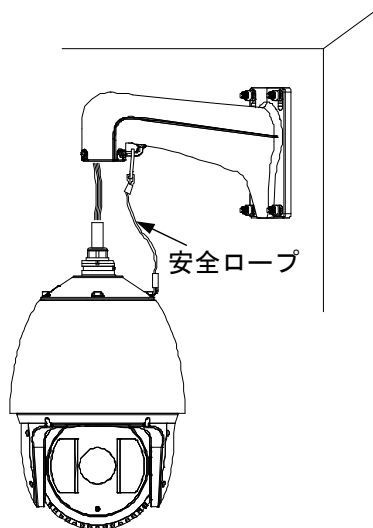


図 2-19 安全ロープの取り付け

5. 取付金具のロックネジをゆるめます。
6. 以下に示すようにスピードドームを取付金具に合わせ、反時計回りまたは時計回りに回して金具にきつく固定します。

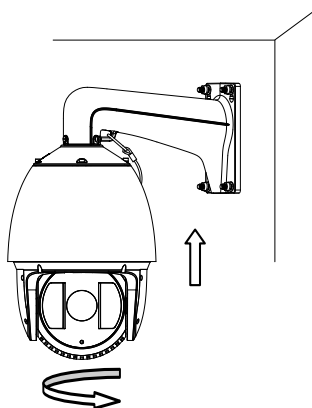


図 2-20 スピードドームの取り付け

7. L 字レンチを使って固定ネジを締め、スピードドームと取付金具を固定します。

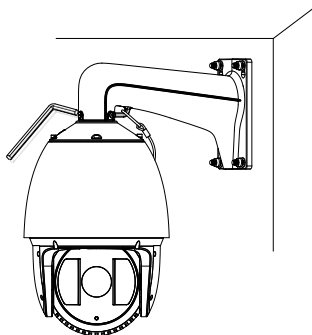


図 2-21 スピードドームの固定

8. 設置が完了したら IR またはレーザー光の保護フィルムを取り外します。



- 図 2-7 の取付金具はスピードドームシリーズに推奨されているものです。他の取付金具を使う場合はペンダントアダプターが必要です。図 2-22 を参照してください。
- ペンダントアダプターの寸法は $G1\frac{1}{2}$ です。

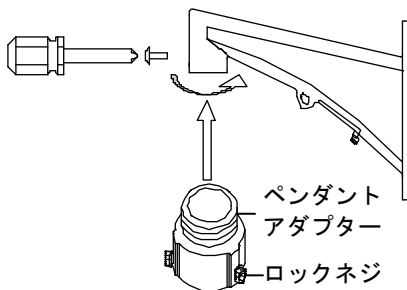


図 2-22 ペンダントアダプター

2.1.4 タイプ IV スピードドーム

方法:

1. 図 2-23 に示すとおり、保護ステッカーを取り外します。

保護ステッカー

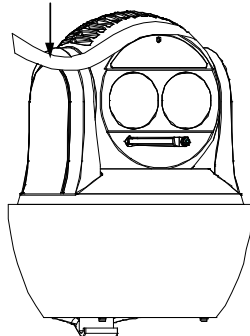
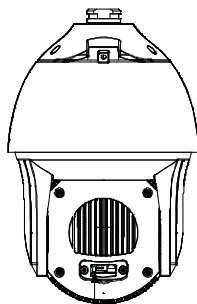


図 2-23 保護ステッカーの取り外し

2. スピードドームの背面のカバーを取り外します。SD カードを SD カードスロットに挿入し、カバーを取り付け直します。



SD カードスロット

図 2-24 SD カードスロット

3. 取付金具を 4 つの六角ナットとワッシャーで固定します。

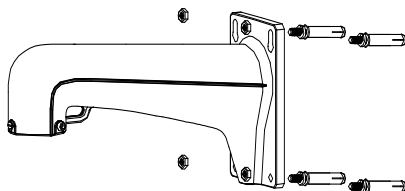


図 2-25 取付金具の固定

4. ヘッドカバーのネジ溝部分にスレッドテープを巻きつけ、ヘッドカバーを取付金具に対して回転させます。固定ネジ(同梱) を使ってヘッドカバーを取付金具に固定します。

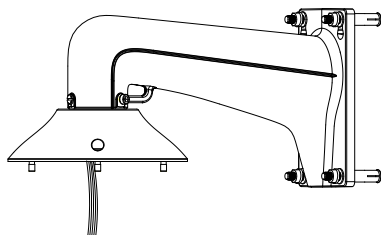


図 2-26 ヘッドカバーの固定

5. ハンドルを安全ロープに留めます。

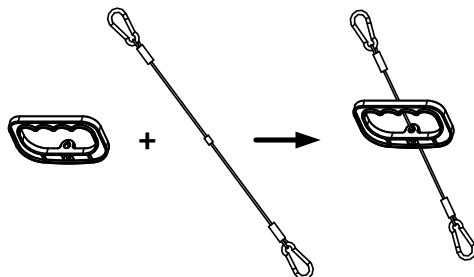


図 2-27 ハンドルの留め付け

6. 安全ロープの両端をスピードドームの後部ボックスと取付金具にそれぞれ掛けます。
7. 後部ボックスのフックでスピードドームをヘッドカバーに連結します。

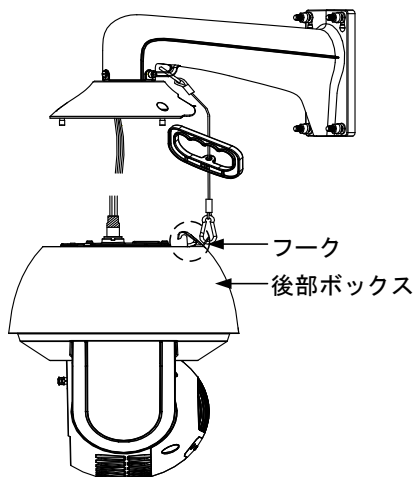


図 2-28 スピードドームの吊り下げ

8. ケーブルをヘッドカバーと取付金具を通して配線します。

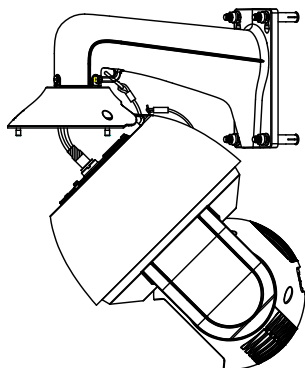


図 2-29 ケーブルの配線

9. スピードボックスの後部カバーをヘッドカバーと合わせてください。六角レンチを使って固定ネジを締め、スピードドームと取付金具を固定します。

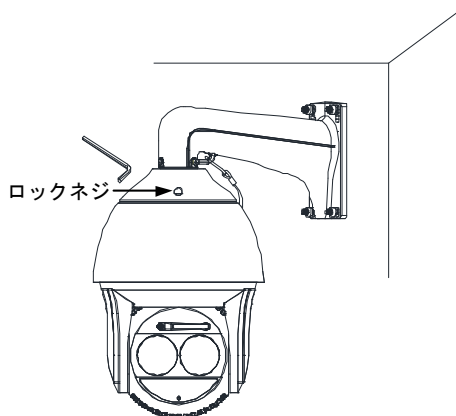


図 2-30 スピードドームの固定

10. 設置が完了したら IR またはレーザー光の保護フィルムを取り外します。



- 図 2-25 の取付金具はスピードドームシリーズに推奨されているものです。他の取付金具を使う場合はペンダントアダプターが必要です。
- ペンダントアダプターの寸法は $G1\frac{1}{2}$ です。

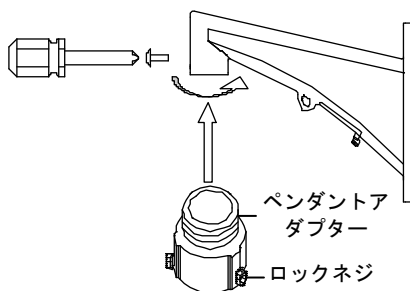


図 2-31 ペンダントアダプター

2.2 天井埋め込みマウント



天井埋め込みマウントは 5 インチ屋内スピードドームでのみ利用可能です。

始める前に:

天井埋め込みマウントは屋内での天井工事に利用可能です。以下はこの種のマウントの必須条件です:

- 天井裏の空間は高さが 250mm 以上でなければなりません。
- 天井面の厚さは 5mm から 40mm までです。
- 天井が、ドームとアクセサリの重量の 4 倍の重量に耐えられる十分な強度を持っていることを確認してください。

方法:

1. 図 2-32 に示すように下部ドームを反時計回りに回して後部ボックスから取り外します。
2. レンズ保護カバー、保護フォームおよびステッカーをドームドライブから取り外します。
3. 下部ドームを後部ボックスに取り付け、時計回りに回して固定します。

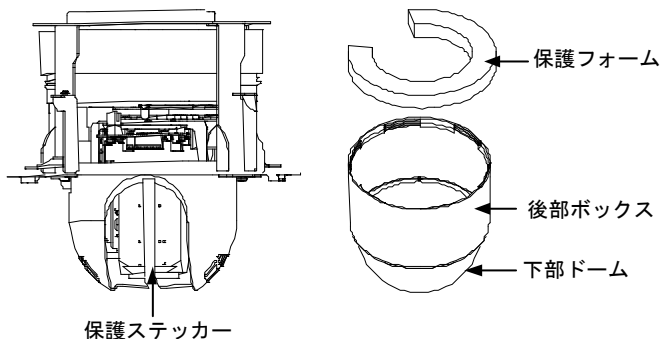


図 2-32 保護アクセサリの取り外し

4. ドリルテンプレート(同梱) に合わせて、ドリルで天井に穴を開けてください。



穴の直径 ± 2 mm の誤差は許容可能です。

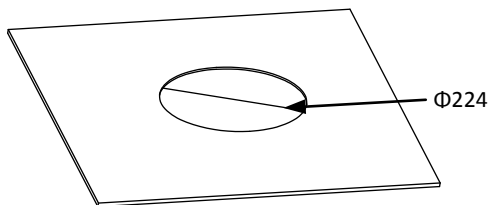


図 2-33 天井への穴開け

5. ケーブルを接続します。

ビデオケーブル、コントロールワイヤーおよびネットワークケーブルは対応するインターフェイスに接続済みです。電源ケーブルを接続し、電源をオンにすると LED インジケータが点灯します。



スピードドームをチェックしたら電源をオフにしてください。

6. スピードドームを天井に設置します。

- 1). 後部ボックスの両側の 2 本のロックネジを緩め、以下の図に示すように、ロックを内側のポジションにします:

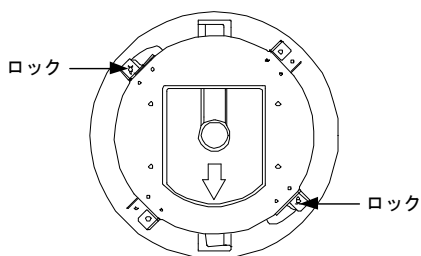


図 2-34 ロックとロックネジ

- 2). スピードドームを天井のマウント穴に押し付けます。
- 3). ロックネジをドライバーで締めると、ロックは自動的に外側に回転し、天井埋め込み取付金具を天井に固定します。

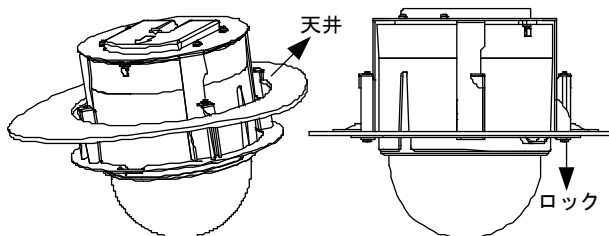


図 2-35 後部ボックスの取り付け

7. フランジを設置します。

- 1). フランジを下部ドームに取り付け、トリムリングの三角ノッチを天井埋め込み取付金具の矢印ラベルに合わせます。
- 2). フランジをしっかりと固定した後で、フランジを矢印の方向に回し、所定の位置に固定します。



- 設置が完了したら下部ドームの保護フィルムを除去します。
- 明瞭なビデオ画像を得られるように、スピードドーム設置の際は静電防止手袋を着用してください。

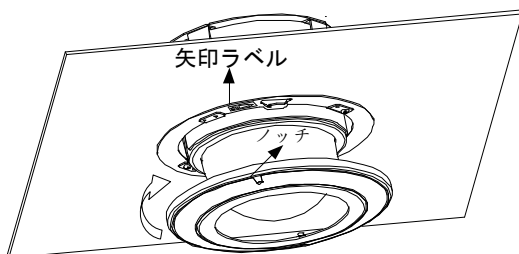


図 2-36 フランジの設置

2.3 天井マウント



天井マウントは 5 インチ屋内スピードドームでのみ利用可能です。

始める前に:

- 天井面の厚さは 5mm から 40mm までです。
- 天井が、ドームとアクセサリの重量の 4 倍の重量に耐えられる十分な強度を持っていることを確認してください。

2.3.1 天井埋め込み取付金具の取り外し

天井マウントのスピードドームにはあらかじめ天井埋め込み取付金具が装着されています。スピードドームを天井面に設置するためには、まずこの天井埋め込み取付金具を取り外しておく必要があります。

方法:

1. 以下の図に示すように(左側)、4本のネジをゆるめて取り外します。以下の図に示すように(右側)、天井埋め込み取付金具を取り外します。

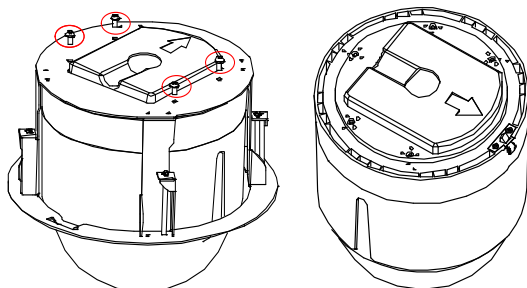


図 2-37 取付金具の取り外し

2. 図 2-21 に示すように 4 つのボルトをネジ穴に挿入します。

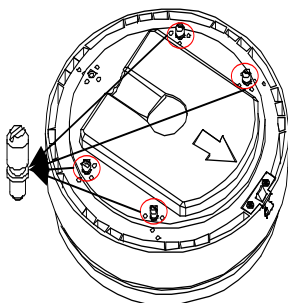


図 2-38 ボルトの挿入

2.3.2 天井マウント適用時の配線

ドームのケーブルは図 2-39 に示すとおり、後部ボックスの上面あるいは側面のどちらからでも配線できます。後部ボックス上面からケーブルを配線する場合、天井にドリルでケーブル孔を開ける必要があります。

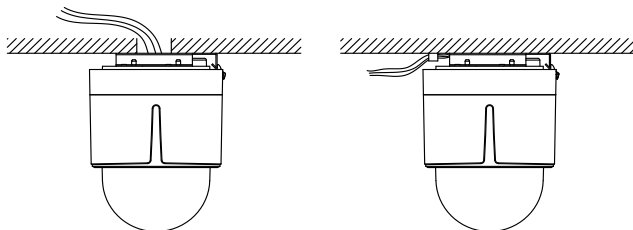


図 2-39 天井マウント時の配線

2.3.3 マウント

始める前に:

- スピードドームを木の壁に設置する場合、セルフタッピングネジを使ってマウントベースを固定してください。
- ドームをセメント壁に設置する場合、Φ5 のネジ穴を 3 箇所、穴の位置に合わせてドリルで開け、マウントベースを拡張ネジを使って壁面に固定してください。

方法:

1. 下部ドームを反時計回りに回して後部ボックスから取り外します。図 2-32 を参照してください。
3. レンズ保護カバー、保護フォームおよびステッカーをドームドライブから取り外します。
4. 下部ドームを後部ボックスに取り付け、時計回りに回して固定します。
5. 壁面に、マウントベースを型紙のように使って 4 箇所のネジ穴の位置をマークしてください。
6. 後部ボックス上面からケーブルを配線する場合、天井にケーブル孔をマークし、ドリルで孔を開けます。
7. マウントベースを固定ネジで天井に固定します。

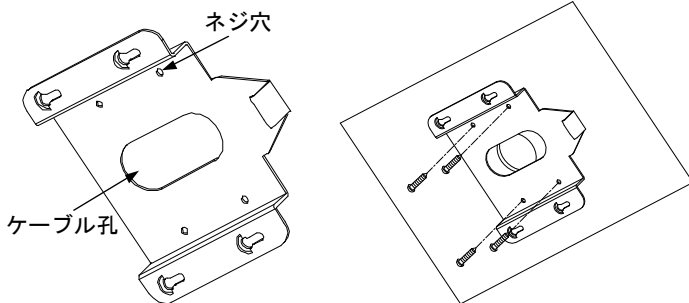


図 2-40 マウントベースの固定

8. スピードドームをマウントベースに設置します。
 - 1). ケーブルをスピードドームに配線します。スピードドームの底面をマウントベースに合わせます。
 - 2). マウントベースのスプリングの端を矢印の方向に合わせます。
 - 3). スピードドームを押し上げてから、さらに矢印の方向に押し込みます。スピードドームが所定の位置に収まると、スプリングによってロッククリップが自動的にしっかりとハマります。図 2-41 を参照してください。

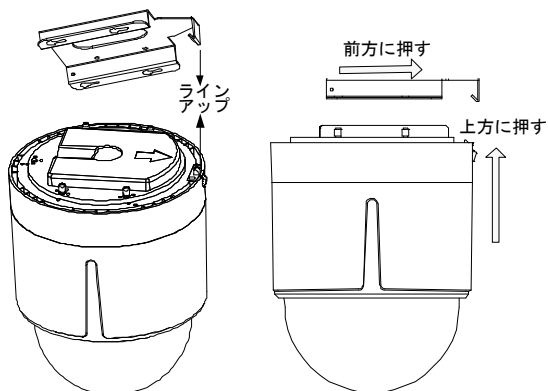


図 2-41 マウントベースへの後部ボックスの取り付け



- 設置が完了したら下部ドームの保護フィルムを除去します。
- 下部ドームの透明面を直接、手でさわらないでください。画像がぼやけることとなります。

3 LAN 経由でのドームの設定



- インターネットアクセスでの製品の使用は、ネットワークのセキュリティリスクがあることを承諾することになります。ネットワーク攻撃や情報漏えいを回避するには、ご自身の保護対策を強化してください。製品が正常に動作しない場合、ディーラーやお近くのサービスセンターにご連絡ください。
- スピードドームのネットワークセキュリティを確保するために、スピードドームの定期的な確認と点検をお勧めします。前記サービスが必要な場合には弊社までご連絡ください。

3.1 配線

スピードドームを LAN (ローカルエリアネットワーク) 経由で閲覧、設定するためには、ネットワークスピードドームをお使いの PC と同じサブネットに接続する必要があります。その上で、SADP もしくはクライアントソフトウェアをインストールし、ネットワークスピードドームの IP を検索して変更します。

以下の図で、ネットワークスピードドームのケーブル接続方法を示します。

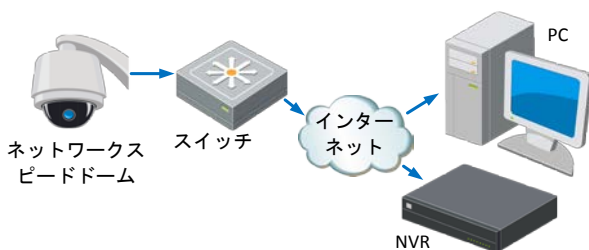


図 3-1 LAN 経由での配線

3.2 スピードドームのアクティベート

目的:

スピードドームのご利用の前に、強力なパスワードを設定してスピードドームをアクティベートする必要があります。

Web ブラウザ経由のアクティベーション、SADP 経由のアクティベーションおよびクライアントソフトウェア経由のアクティベーションがサポートされています。以下の節では、Web ブラウザおよび SADP 経由のアクティベーションを例とします。クライアントソフトウェア経由のアクティベーションの詳細についてはスピードドームの使用説明書をご参照ください。

3.2.1 Web ブラウザ経由のアクティベーション

方法:

1. スピードドームの電源を入れ、スピードドームをネットワークに接続します。
2. Web ブラウザのアドレスバーに IP アドレスを入力し、エンターキーを押してアクティベーションインターフェイスに入ります。



スピードドームのデフォルト IP アドレスは 192.168.1.64 です。

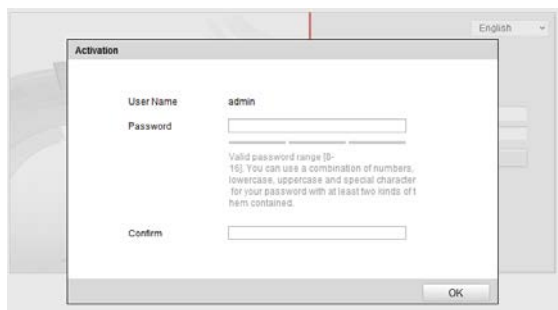


図 3-2 アクティベーションインターフェイス (Web)

3. 新しくパスワードを作り、パスワードフィールドに入力します。



強力なパスワードを推奨 製品のセキュリティを高めるため、ご自分で選択した強力なパスワード (大文字、小文字、数字、特殊記号のうち、少なくとも3つのカテゴリで構成された文字を8文字以上含むパスワード) を設定するよう強くお勧めします。また、定期的にパスワードを再設定し、特に高いセキュリティシステムでは、毎月または毎週パスワードを再設定すると、より安全に製品を保護できます。

4. パスワードを確認します。
5. [OK] をクリックしてスピードドームをアクティベートし、ライブビューインターフェイスに入ります。

3.2.2 SADP ソフトウェア経由のアクティベーション

SADP ソフトウェアはオンラインデバイスの検知、デバイスのアクティベートおよびパスワードのリセットに利用します。

ネットワークスピードドーム・クイックスタートガイド

SADP ソフトウェアを付属のディスクまたは公式のウェブサイトから入手し、プロンプトにしたがって SADP をインストールします。スピードドームをアクティベートするにはこの手順にしたがってください。

方法:

1. SADP ソフトウェアを実行し、オンラインデバイスを検索します。
2. デバイスリストからデバイスステータスをチェックし、非アクティブ状態のデバイスを選択します。

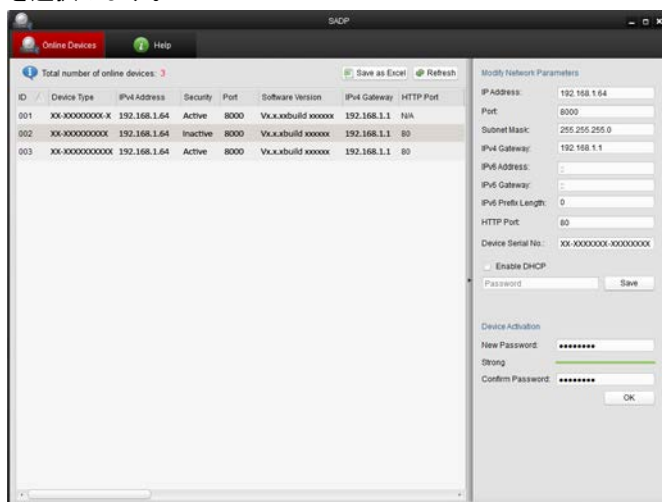


図 3-3 SADP インターフェイス

3. パスワードフィールドに新たなパスワードを入力して、パスワードを確認します。



強力なパスワードを推奨 製品のセキュリティを高めるため、ご自分で選択した強力なパスワード (大文字、小文字、数字、特殊記号のうち、少なくとも3つのカテゴリで構成された文字を8文字以上含むパスワード) を設定するよう強くお勧めします。また、定期的にパスワードを再設定し、特に高いセキュリティシステムでは、毎月または毎週パスワードを再設定すると、より安全に製品を保護できます。

4. [OK] をクリックしてパスワードを保存します。

ポップアップウィンドウからアクティベーションが完了したか確認することができます。アクティベーションに失敗した場合、パスワードが必要条件に適合していることを確認して再試行してください。


3.3 IP アドレスの変更

目的:

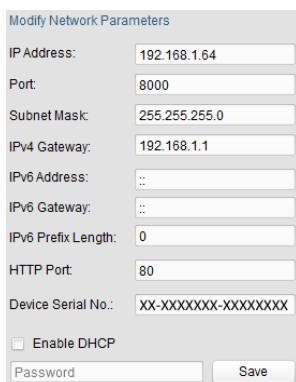
スピードドームを LAN (ローカルエリアネットワーク) 経由で閲覧、設定するためには、ネットワークスピードドームをお使いの PC と同じサブネットに接続する必要があります。その上で、SADP ソフトウェアもしくはクライアントソフトウェアをインストールし、ネットワークスピードドームの IP を検索して変更します。IP アドレス変更の説明のために、SADP ソフトウェア経由での IP アドレス変更を例に取り上げます。

方法:

1. SADP ソフトウェアを実行します。
2. クリックしてアクティブデバイスを選択します。

 **注記** スピードドームがアクティブでない場合、3.2 節を参照して、アクティブートしてください。

3. デバイスの IP アドレスをお使いのコンピュータと同じサブネットにするには、IP アドレスを手動で変更するか、[DHCP を有効化] のチェックボックスをチェックしてください。



Modify Network Parameters	
IP Address:	192.168.1.64
Port	8000
Subnet Mask:	255.255.255.0
IPv4 Gateway:	192.168.1.1
IPv6 Address:	::
IPv6 Gateway:	::
IPv6 Prefix Length:	0
HTTP Port:	80
Device Serial No.:	XX-XXXXXXX-XXXXXXX
<input type="checkbox"/> Enable DHCP	
Password	Save

図 3-4 IP アドレスの変更

4. パスワードを入力して **[保存]** をクリックし、IP アドレスの変更を有効化してください。

4 Web ブラウザ経由のアクセス

システム要件：

オペレーティング システム: Microsoft Windows XP SP1 またはそれ以上のバージョン/Vista/Win7/Server 2003/Server 2008 32 ビット版

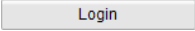
CPU: Intel Pentium IV 3.0 GHz またはそれ以上

RAM: 1G またはそれ以上

ディスプレイ: 解像度 1024×768 またはそれ以上

Web ブラウザ: Internet Explorer 7.0 以上のバージョン、Apple Safari 5.02 以上のバージョン、Mozilla Firefox 5 以上のバージョンおよび Google Chrome8 以上のバージョン

方法:

1. Web ブラウザを開きます
2. ブラウザのアドレスバーにネットワークスピードドームの IP アドレス(例: 192.168.1.64) を入力し、[Enter] キーを押してログインインターフェイスに入ります。
3. スピードドームを最初にご利用するためにアクティベートを行う場合、**3.2 節 スピードドームのアクティベート** を参照してください。
4. ユーザ名とパスワードを入力し、 をクリックします。
管理ユーザはデバイスのアカウントおよびユーザ/オペレータの権限を適切に設定する必要があります。必要のないアカウントおよびユーザ/オペレータ権限は削除してください。



注記

管理ユーザがパスワード入力に 7 回失敗するとデバイスの IP アドレスはロックされます(ユーザ/オペレータの場合、5 回)。

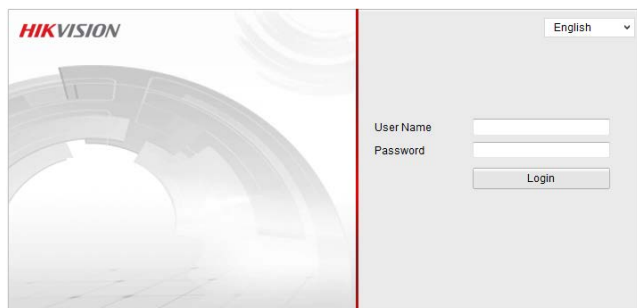


図 4-1 ログインインターフェイス

5. ライブビデオの閲覧やネットワークスピードドームの管理を行う前にプラグインをインストールしてください。インストールの指示に従い、プラグインをインストールします。



プラグインのインストールを完了するためにウェブブラウザを閉じなければなりません。

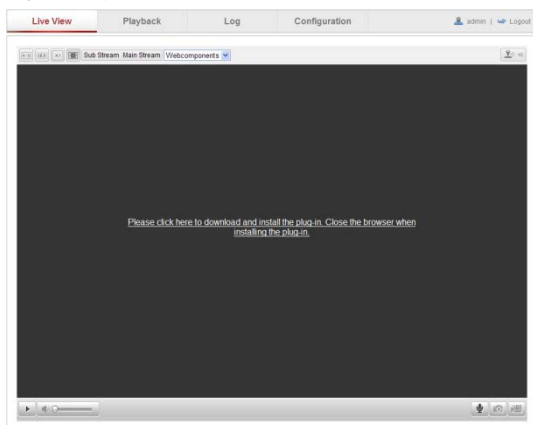


図 4-2 プラグインのダウンロード

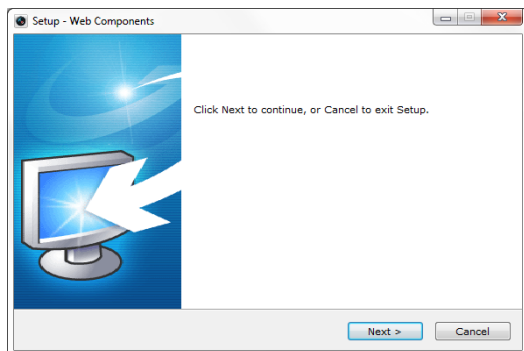


図 4-3 プラグインのインストール

6. プラグインをインストールした後で Web ブラウザを再起動し、上記 2-4 の手順を繰り返してログインします。



その他の設定の詳細な解説についてはネットワークスピードドームの使用説明書を参照してください。

First Choice for Security Professionals